

「水引小学校の寄田三尺棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立水引小学校

2 学年・人数

4年生（計19人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年9月～10月 水引小学校体育館

(2) 発表の日時・場所

令和4年11月3日（木） 校区総合文化祭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

寄田三尺棒踊り（よりたさんじゃくぼうおどり）

(2) 由来

鎌倉時代や戦国時代に始まったといわれる。各地で戦乱が相次ぎ，農地は荒廃したが，農民は自衛のための武器を持つことも許されなかった。

そこで農民は六尺または三尺の棒を担ぎ，護身に用いた。もともと武術の一種ともいわれるが，一説には田打ち行事の一つで，地面をとんとんくのは田開きで虫追いだとする農耕儀礼説もある。昭和38年に県の無形民俗文化財に指定され，その伝統が受け継がれている。

(3) 構成等

3列縦隊，6人1組で踊る。紺緋に白襷をかけ，紺の足袋に草鞋，白鉢巻きをし，長さ3尺の木刀を持って勇壮に踊る。歌い手の「おーせーろー」の歌に合わせて踊り子が氣勢を上げながら踊りの隊形を整える。「さーさーさー」の踊り出しの歌と同時に，「ほい」と踊り子は小手をかざして木刀を使いながら踊り始め，6人がらみ，3人がらみ，出棒＝受身の型，逆棒＝攻撃の型など交えて威勢よく踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

年1回，6月第1日曜日に行われる新田神社の御田植祭において奉納を行っている。御田植祭の1月前ほどから準備が始まり，児童もお師匠さんたちに教わりながら練習に取り組む。夜間の練習になるが，保護者は子供の送り迎えをし，練習の間も見守っている。地域と保護者の協力体制の下，子供たちは熱心に三尺棒踊りの伝承活動に取り組んでいる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

平成26年度に始まった「水引中校区総合文化祭」では，毎年4年生が舞台での発表を行っている。

また，ふるさと・コミュニケーション科における郷土の歴史・文化・伝統についての調べ学習（「ふるさとを学ぼう」）の中で，5・6年生の児童が中学1

年生と共に校区の歴史や由来、踊り方などを調べ、2学期に行う「ふるさとを学ぼう合同発表会」で発表している。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



寄田三尺棒踊り練習の様子①



寄田三尺棒踊り練習の様子②



寄田三尺棒踊り発表の様子①



寄田三尺棒踊り練習の様子②

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【4年生】

- ・ 踊りが難しかったが、本番で上手に踊れたのでよかった。タブレットで動画を確認しながら、たくさん練習した。
- ・ 練習に寄田三尺棒踊り保存会の方に来ていただいて、本物の踊りをできてよかった。とても優しく教えてくださった。
- ・ 本番は衣装を着ることができて、踊るのが楽しくなった。

【保存会から】

- ・ 毎年、4年生の指導をしているが、その年の子供の雰囲気違って、とても楽しい。子供たちは一生懸命に練習をしてくれるので、教えていてやりがいを感じる。この体験を通して、寄田地区に伝わる「寄田三尺棒踊り」を、水引小と水引中の子供たちが踊り継いでくれることがありがたい。